

特別講演 1

「ウイルス性肝炎治療の進歩とこれからの課題」

福井大学大学院医学系研究科 内科学（2）領域教授

中本 安成 先生

日本では、肝がんの約 80%が肝炎ウイルスの持続感染によって引き起こされることが知られています。また世界的には HBV に起因する肝がんが多いのに比べて、日本では HCV に起因する肝がんが圧倒的に多いとされています。しかしながら昨年 15 年ぶりに改訂された『肝がん白書』によると HCV に起因する肝がんが減少傾向にあります。その背景としては IFN より始まった HCV に対する治療の進歩が考えられます。また 2014 年 9 月を皮切りに経口剤のみによる治療が続々と発売され、日常診療に大きな影響を与えております。近年急速に進歩してきたウイルス性肝炎治療、これからの課題について触れさせていただきます。